



長崎さんが町に日本画を寄贈

長崎百合子さん（長崎・63歳）から、町に日本画が寄贈されました。この絵画は、第46回岩手芸術祭美術部門で日本画の奨励賞を受賞した「あぜみち」という作品で、12年ほど前に長崎さんがJR織笠駅近くで見た風景を描いたものです。6月12日に役場町長室で行われた贈呈式では、長崎さんが「山田町には日本画講座などで大変お世話になりましたので、少しばかりのお礼です」と沼崎喜一町長に贈呈しました。この絵画は、現在役場4階の応接室に飾られ、来庁者の目を楽かせています。

華翔會で会員募集

よさこいソーランを一緒に踊りませんか

よさこいソーランチーム「華翔會」では、会員を募集しています。同会は山田町の活性化を願って、今年5月に結成。現在、石狩流星海宮古支部「宮古流星海」の協力のもと、練習に励んでいます。皆さんもよさこいソーランを踊ってみませんか。年齢は50歳くらいまでで体力に自信のある方であれば、どなたでも大歓迎です。

- ▶定員 50人
- ▶連絡先・問い合わせ 華翔會（松崎美香）090-3127-2542 へどうぞ。

イラスト



みんなのスペース



さかもとしゅうやくん
(轟木児童館・6歳)

ぼくのゆめ

大きくなったら大工さんにになりたいな。自分で2階建ての大きな家を建てるんだ。

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

山田よいと好きな町(四)

塩釜通いの三陸汽船がまだ周航していた昭和の始めころ、釜石市の「矢ノ浦」という地名を模して船名にした「矢ノ浦丸」という船があった。この船、冷凍設備はなく、大きな角氷を何枚も冷蔵庫に積み込んでオガクズで厚く囲い、三陸の港々を巡りながら、鮮魚などを運搬していたようだ。この船の船長が、わが家の長兄だった。

たまたま山田に入津した時、まだ幼かった末っ子の僕は、兄に抱かれ船長室で一夜を過ごしたかすかな記憶がある。追想すると、始めなんか船の特異な臭いがして嫌だったが、しつかりとやさしく抱き込んでくれる兄の、ほのかなぬくもりに癒やされて朝までぐっすり。その夜の港の景観については何も浮かばない。ただ暗に包まれ、かすかな漁火が一つ揺れて静かだった。ある日、「矢ノ浦丸」でやってきた兄が、土産にとバナナをどっさり持ってきた。それまで食べたこともないバナナに、みんな目を輝かせてビックリした。

早速、笑みを交わしながら家族八人全員がお張り、一家だんらんのひととき。だが父親だけは、以前に食べたことがあった。それは、釜石の石応禪寺を再興なさった智賢大和尚と血縁があり、ある日、寺を訪れたときに大変な歓待を受け、ご馳走にバナナも出た。

それまで食べたことのない父は、皮もむかずそのまま握ってかじろうとしたが、一緒に握っていた義兄が「オドッちゃ、それあ皮むいで食べるんだべ」と言われたとかいう話を聞いたことがあった。そのことを時に思い出すと、移ろいゆく時代を反映するような、ほほ笑ましいエピソードだと思ふ。

近場でも最高の親子遠足に

五月十九日、わかき保育園の親子遠足で、陸中海岸青少年の家に行ってきました。自分の運転で走るいつもの道も、バスに乗ると景色が違って見えるから不思議です。

到着して早速、山の中の木や建物に隠されている動物の絵を探すアニマルハンティングをしました。四十種類の動物を見つ

お座敷広場で大黒舞を披露

六月十五日、船越地区のお座敷広場が行われた。わたしは初めての参加とき、母親にも当たるような方々と交流するので、ちよっと戸惑うような感じもしたが、私も老人の集まりに参加するような年代になったのかなあと感ずる一幕もあった。

集まりの中では、血圧測定、健康体操、健康についてのお話、また童謡の曲を聞いて曲目を当てるといふ頭の体操と、なかなか

か民生委員の方々のアイデアには感心させられた。そして、あん餅、すり身汁と腹いっぱいのご馳走の後は、唄、踊りとにぎやかに。わたしも何か一つと思いつき、持ち芸の大黒舞を十年ぶりに踊り、みんなが腹を抱えて笑うシーンもあった。

以前から集会に呼ばれてはいたがチャンスがなく、今回はたまたま呼び掛けにこたえられ、酒は止めても踊りは止められんとつくづく感じさせられた。昔は釜石のチャリティーで観客を笑わせた一幕もあったが、やっぱり笑いはいいなあ。そして楽し

広報の同姓同名にびっくり

広報やまだ六月一日号の「結婚した二人」に載っていた名前を見てびっくりしました。それは自分と同姓同名の方が結婚されていたからです。お嫁さんに行くと姓は変わられたかもしれないが、あまり無い名前なので同じ名前の人がいるというだけでうれしくなりました。

わたしは小さい時、「ちとせあめー」とよく呼ばれた思い出があります。大沢にお嫁に来て佐々木の姓になり十数年です。豊間根の佐々木千登世さん、ご結婚おめでとうございます。

佐々木千登世（大沢・40歳）

思い出に残るアサリまつり

町を出て都会暮らしをしていく娘が五月の連休に帰省し、「楽しみがない」とぼやいていました。ちょうどアサリまつりが開催されていたので、「行くこと」と計画することに。

汽車で行くかと考えましたが、歩いた方が早いとばかり、四十六歳のわたしと二十歳の娘、そして十一歳間近の娘の三人で、山田中学校の坂と織笠コミュニティセンターの坂を上り下り。道々にはタラの芽があつたりして、森林浴も楽しみながら目指すアサリまつりの会場へ三十分かけて歩きました。

結果、捕れたアサリは三人で五百グラムほど。疲れた一日でしたが、三人にとっては忘れられない思い出になりました。この話を聞いた人は笑い話に思えたらいいですが。

富士豊美（境田町・46歳）

わが余命 妻の支えに頼る日々 齋藤忠雄（船越・80歳）

朝事に 妻の手引きで散歩する 共に八十路の半ば超えたり 菊地孝進（船越・84歳）

涼やかに 風鈴揺らして風流る 沼崎悦子（船越・64歳）

おらが町 世界遺産か熊が出る 佐藤兼男（荒川・79歳）